

おのこあ

2016年 11月号
No. 148 (H28-1)



「浮体式洋上風力発電」風車

5月に組立て、

海路福島沖へ

今頃は、バリバリ発電

大活躍か！

洲本家保があった炬口の海岸から

淡路家畜保健衛生所

〒656-0122 南あわじ市広田広田1227

TEL. (0799) 45-2411

FAX. (0799) 45-1129

Eメール awajikhe@pref.hyogo.lg.jp

HP <http://www3131.ec-net.jp/>

＜巻頭言＞



所長
國東 大資

今年は5月頃から東太平洋海域でラニーニャ現象が発生し、猛暑になると予測されましたが、そのとおり暑く長い夏でありました。家畜を飼育する皆様方におかれましては、例年になく暑熱対策に苦勞されたのではないのでしょうか。

さて現在、政府では農林水産業の輸出力を強化すべく、政策を進めています。2015年の農林水産物・食品の輸出額は7,451億円と3年連続で最高額を更新しており、2016年の中間目標である7,000億円をすでに達成したことから、2020年目標の輸出目標額1兆円の前倒しを目指しているところです。品質においてはどこにも負けない日本の農林水産物は、世界中で歓迎されるものと思います。

農林水産物を輸出入する場合、特に動物、植物の場合は防疫面を無視するわけにはいきません。現在、国では畜産物の輸出拡大を図るため、いくつかの国と検疫条件の協議を行っています。特定の相手国に対し、新たに輸出を始めるためには、相手国から日本国内における家畜疾病のリスク評価が行われた上で検疫条件の協議が進められます。日本の家畜の飼養衛生管理については、世界的に見ても高水準にあるものと確信していますが、このような流れのなか、私たち家畜保健衛生所の職員もさらに技術を研鑽し、適正な家畜飼養衛生管理の推進による生産性の向上、家畜疾病の発生予防、そして安全安心な

畜産物の生産に貢献したいと考えています。

また現在、外国から日本を訪れる観光客が急増しており、昨年の訪日外客数は1,973万人、今年は8月末の時点で1,600万人を超える観光客が日本を訪れています。政府は2020年には倍増の4,000万人を目指しています。一方、2012年をピークにやや減少傾向であった出国者数も、今年に入って増加傾向にあるようです。

このように農林水産物の輸出促進、出入国者の増加、先行きが心配なTPPなど、様々な局面でグローバル化が進んでいます。グローバル化によって海外悪性伝染病侵入の危険性が高くなることは、家畜を飼う者にとって心配の種ではありますが、現在の好調な但馬牛価格は、輸出の恩恵とも言え、文句ばかり言ってもおれません。こういった時代に対応した家畜衛生対策を講じていかなければなりません。

生産者の皆様におかれましては、特に伝染病の侵入防止に十分気をつけてください。家畜伝染病予防法では個々の生産者の段階で伝染病の侵入を防止するための「飼養衛生管理基準」が定められ、それを守るよう義務づけています。是非とも遵守していただき、伝染病の侵入を防止していただくようお願いします。

淡路島はこの春、島内31の史跡・景観・文化財が「日本遺産」に認定され、明るい話題がまた一つ増えました。魅力的な観光スポットが増え、国内外から島を訪れる観光客もますます増加するものと思います。海外悪性伝染病の侵入防止に気を引き締めつつも、この機会に淡路の畜産物の魅力を多くの人々に発信し、島の盛り上がりとともに元気になっていけたらと期待しています。



< 家畜衛生情報 >

遺伝子型を指標とした牛白血病対策

病性鑑定課 丸尾 喜之

牛白血病の発生頭数は年々増加傾向にあり、かつては老齢牛の疾病でしたが、最近では若齢牛でも発生が見られるようになり、その対策が急務となっています。

先日参加した動物衛生研究部門の研修会で、遺伝子型を指標とした牛白血病対策の研究成果が発表されましたので、その概要を紹介します。

(1) 牛白血病とその対策

牛白血病は、そのほとんどが牛白血病ウイルス (BLV) によるB細胞性リンパ腫です。BLVは陽性牛の白血球 (リンパ球) によってうつりますが、感染したウイルスはリンパ球の核内に取り込まれるためBLV抗体が陽転しても牛の体内から排除されません。BLV陽性牛の70%は無症状ですが、30%が持続性リンパ球増多症となり、5~10年後に数%が牛白血病を発症します。

これまでBLVに感染しても牛白血病を発症しなければ経済的損失は無いと考えられていましたが、最近では未発症牛でも免疫機能の低下等による生産性への影響が明らかになってきました。

BLVは陽性牛の血液や体液を介して感染するため、吸血昆虫 (アブ、サシバエ) による感染防止が重要で、その対策として陽性牛と陰性牛の間隔を空けたり、防虫ネットで仕切る方法がとられています。

BLV陽性牛は、血液中のウイルス量が多いほど感染リスクは高くなります。陽性農場の清浄化では、まず感染の有無を確認した上で陽性牛と陰性牛を群分けして新たな感染を防止し、陽性牛は血液中のウイルス量の多いものから優先的に淘汰を進めます。

(2) BLV感受性の個体差

BLV陽性牛は無症状の状態から持続性リンパ球増多症を経て牛白血病を発症しますが、発症

には宿主側の要因が関与していることが分かってきました。

BLV陽性牛の牛主要組織適合抗原 (BoLA) の遺伝子型 (DRB3 アリル) の違いによって牛白血病の発症率が異なることが確認され、感受性アリルを有する牛 (感受性牛) は血中ウイルスが増えやすく、抵抗性アリルを有する牛 (抵抗性牛) は増えにくいことが分かりました (図1)。

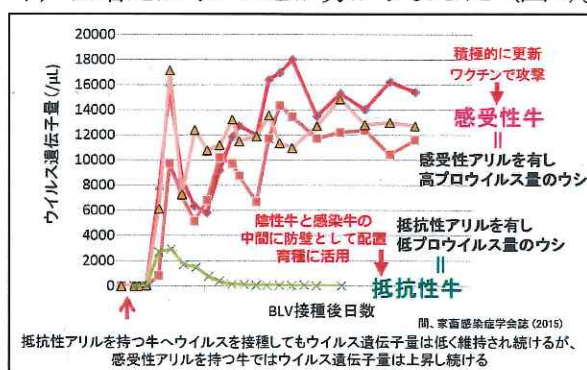


図1 感受性が異なる個体のBLVウイルス量の推移 (研修会資料)

(3) 遺伝子型による新たな牛白血病対策

BLV感受性の違いを遺伝子型で識別できれば、抵抗性牛はBLV陽性であってもウイルスが増えにくいので、陰性牛と陽性牛の間に配置してBLV防護壁として活用することができます。感受性牛はウイルスが増えやすく感染リスクが高いので、積極的に淘汰する牛となります (図2)。

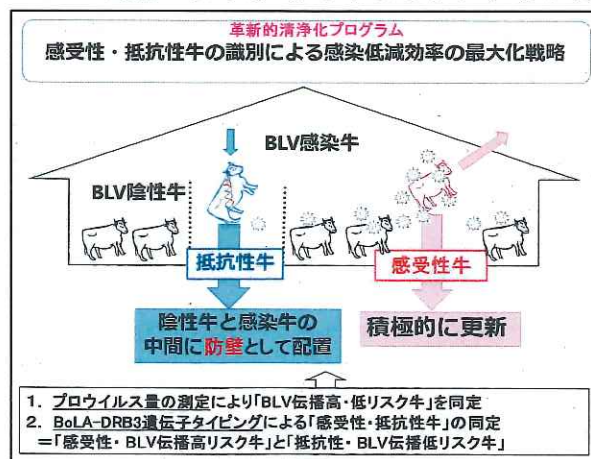


図2 遺伝子型識別によりBLV清浄化イメージ (研修会資料)

遺伝子型の違いによるBLV感受性の個体差を

把握することで、より効率的に農場の陽性率を下げることができ、牛白血病対策の新たな手法

として早期の実用化が期待される技術であると思いました。

農場 HACCP 審査員養成研修会

防疫課 中山 卓也

平成 28 年度公益社団法人・中央畜産会主催の農場 HACCP 審査員養成研修会を受講しました。本研修会は、農場指導員養成研修会終了者を対象として実施されています。

家畜を飼養するに当たって伝染病の発生予防まん延防止だけでなく、畜産物の安全確保の観点からも HACCP 方式の導入による適切な衛生管理が推奨されています。この HACCP は、1960 年代に米国で宇宙食の安全性を確保するために開発された食品の衛生管理の方式で、Hazard Analysis Critical Control Point の頭文字からとったもので、「危害分析重要管理点」と訳されています。この方式は、食品を製造する際に工程上の危害を起こす要因 (ハザード ; Hazard) を分析しそれを最も効率よく管理できる部分

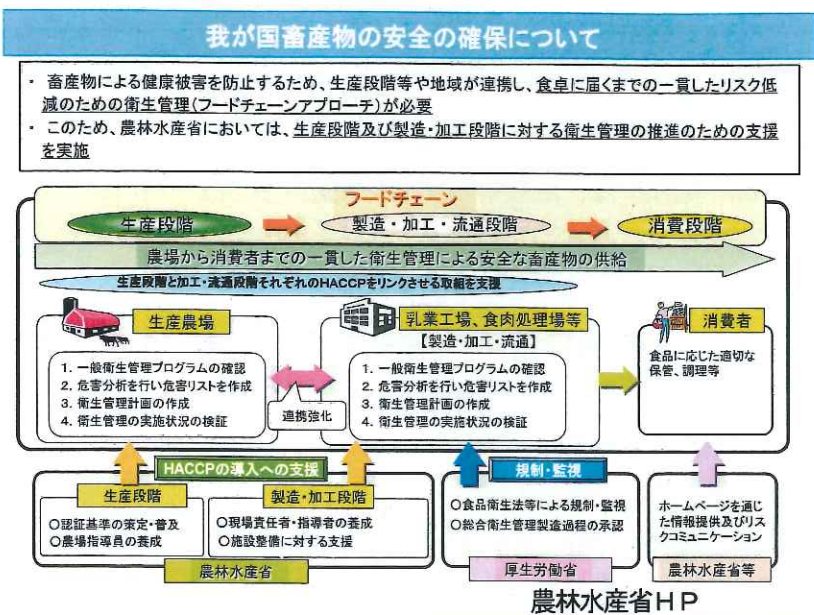
(CCP ; 必須管理点) を連続的に管理して安全を確保する手法です。農林水産省は、畜産物の生産においても家畜の所有者が遵守すべき飼養衛生管理基準の普及・啓発に努めるとともに畜産農場における HACCP の考え方を採り入れた飼養衛生管理を推進するために、平成 21 年に「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準 (農場 HACCP 認証基準)」を公表しました。この認証基準に基づき、平成 23 年度から民間での農場 HACCP の認証手続きが始まりました。

そこで本研修は、農場 HACCP の認証審査を実施する審査員の養成を目的として審査手順、文書審査、現地審査、評価方法、審査報告書の作成等に係る認証審査の実務を総合的に習得するために開催され

ています。研修生は、大学教授、家畜保健衛生所、普及センター職員、薬品メーカー社員等様々な方が受講していました。研修は 3 日間で農場 HACCP の基礎知識から、「農場 HACCP 認証基準」について審査員の立場からの基準の規格の構成、特徴及び要求事項、審査員の使命と特性、審査の原則、行動規範、審査におけるコミュニケーションの心得及び適合審査と有効性について講義がありました。

さらに、グループにわかれ、認証基準における文書審査での懸念事項の抽出、文書審査における留意点、また現地審査の準備、留意点、審査計画書、チェックリスト作成による作業文書の作成さらに初回会議、チェックリストを活用した模擬審査では不適合の区分、不適合事例、不適合報告書の作成、審査チーム会議、最終会議の模擬練習等の審査報告書の作成、是正措置報告書の作成・審査について演習しました。

畜産物の安全性を守るため食品衛生サイドでは義務化の方向に進んでおり、農場サイドでも本方式の導入が進められています。今後、全国



的に農場 HACCP 認証を取得する農場の増加が予想されています。そこで、当所においても HACCP

方式を取り入れた農場指導と認証農場の普及に努めたいと考えています。

<こちら広田広田1227>

乳用牛、肉用牛の県共進会が 淡路で連日開催

平成28年10月29日に県乳牛共進会が淡路島牧場で、30日に県畜産共進会が淡路家畜市場で開催されました。両日とも天候に恵まれ、牛、人共に快適で、大盛況な共進会でした。



当所は、共進会前及び当日の出品牛の健康確認検査と共進会場の消毒及び（紹介記事の写真にあるように、新人の船曳が）畜産共進会の審査員補助を担当しました。



畜産共進会後の臨時肉牛セリ市場では、但馬牛の人気を反映して、去勢区、雌区の名誉賞牛が共に500万円(税抜)のセリ値がつけました。



一方、近年神戸ビーフが全世界に輸出されていますが、県畜産共進会のイベント会場では、逆に全世界のパフォーマーが大勢集まり、イベ

ントは大いに盛り上がりました。

出品者や関係者の皆様、大変お疲れ様でした。

鳥インフルエンザ発生に備えた 防疫研修会

渡り鳥が飛来する季節がやってきました。当所では、鳥インフルエンザの発生に備えた迅速な防疫対策を講じるため、平成28年10月27日に標記研修会を開催しました。鳥インフルエンザ発生時の動員予定者や担当事務所職員、そして養鶏農家を併せた計41名が出席しました。

例年の研修会と大きく異なる点は、「異常家さんの通報から殺処分完了までのタイムテーブル」を用いて、いつ・どこで・誰が・何をするのかの初動対応について明確に示したことです。以下に例を2つ挙げます。

1 作業従事者の健康調査

採卵鶏15万羽規模で殺処分等に必要な初日から翌日未明までの動員者数は274名と想定されます(平成27年度試算、家畜防疫員等を除く)。動員予定者は事前に名簿が作成され、実際に作業に従事する前には健康調査を受けなければなりません。農家からの通報が10時、簡易検査陽性が14時に判明したとすると、動員者に対する健康調査実施会場での作業説明等は19時開始を目標としています。ついては、19時までに健康調査会場の設置と運営、健康調査を実施する保健師等を確保しなくてはなりません。これらは、県民局総務部と健康福祉部が主体となって動きますが、勿論、家畜防疫員も統括として作業にあたります。

2 消毒ポイントの設置

発生農場周辺では、病原体の封じ込めと拡散防止のため、交通遮断や消毒ポイントにおける

車両消毒を実施するための準備が必要です。消毒ポイントは、養鶏場毎に候補地をいくつか選定しています。しかし、実際に消毒ポイントとして運営できるかについても、関係する市や土木事務所と話を詰めなくてはなりません。



養鶏場では、鳥インフルエンザの発生を防ぐため、日々、飼養衛生管理基準の遵守に努めて頂いています。万が一、発生してしまったときに備えて、各関係部局が連携して初動防疫が円滑に進むよう、今回の研修会を活かしていきます。

中央畜産技術研修会（肉用牛）

福島県にある家畜改良センターで、中央畜産技術研修会に参加しました。研修会では、肉用牛の改良を中心に、栄養管理、経営、病気など様々な講義がありましたので一部を紹介します。

【栄養】健やかな子牛を育てることは経営の上でも重要です。そのための三要件は、栄養の充足・快適な飼育環境・的確な疾病予防の継続です。まず代用乳を増やすなど、栄養を充足させることは病気になりにくい牛づくりの第一歩です。

【経営】和牛繁殖経営安定のポイントは、子牛生産効率の向上で、繁殖技術の差により、一生涯の子牛売却額は約50万円の差になります。

【改良】改良面では、脂肪交雑に優れた種雄牛に利用が集中したため、和牛界では全国的に種雄牛の偏重が問題となっています。全国の登録雌牛の37%を上位5頭の種雄牛が占め、近交係数の上昇が進んでいます。近交係数の上昇は、

遺伝的不良の発現、発育不良、受胎率の低下などに影響するため、今後、和牛改良だけでなく品種の存続に関わる問題となっています。

遺伝的多様性の確保についての討論会もあり、国や県を中心に希少系統を維持・発掘することや、繁殖雌牛が減少しているため増頭計画、精液保存、脂肪交雑以外の点で改良目標を設定し、育種価などを利用して種雄牛利用の偏りを減らす案が多くでました。また、希少系統をキャトルセンターで受け入れる案や、希少系統を利用するために、消費者へ希少を売りにアピールし、各県で特徴ある肉について、その肉のおいしい食べ方やレシピを発信し消費者ニーズを多様化させる意見もありました。

兵庫県は閉鎖育種であり、遺伝的多様性の確保は他県にもましてより重要な課題であり、この研修会を活かしていきたいと思いました。

動物愛護週間関連行事の開催

毎年9/20～9/26は動物愛護週間と定められており、淡路獣医師会では、今年度も動物の愛護と適正な飼養に関する普及啓発の各種行事を実施しました。

31回目となる動物愛護絵画コンクールでは、小学生対象の淡路ファームパークでの写生大会は164名の参加があり、島内小学校からの応募作品と合わせ261点の出品がありました。

コアラなどの展示動物や身近な犬猫といった愛玩動物に加え、淡路島らしい乳牛、和牛の絵画が多く出品され、それぞれ愛情いっぱいの筆づかいで描かれていました。

9月22日(祝)には、40名の絵画コンクール入賞者と長寿犬の優良飼養者6名の表彰式が三原ショッピングプラザパルティで行われました。

併せて、当日は動物愛護フェアも開催され、動物愛護センター淡路支所による犬のしつけ方教室や動物病院の獣医師によるペットの健康相談、動物クイズラリー等が行われ、動物の愛護

と適正な飼養についての理解と関心を深める秋の一日となりました。



最優秀賞 北阿万小 1年生の作品
温かくほのぼのとした優しい絵で、牛との時間がとても幸せであることが伝わります。

新任職員紹介

はじめまして。本年度より淡路家畜保健衛生所に勤務しております 船曳 智也（フナビキトモヤ）と申します。出身地は加古川市です。出身大学は宮崎大学で、病理学研究室に所属しておりました。大学が動物園の近所にあったので、研究室にはキリン、鶴、オランウータン、ラクダ、岬馬、クジラやライオン等の“珍獣”の剖検があり貴重な経験をしました。

入庁後、初めて炭疽の予防接種をさせていただき、とても感動したことを今でも鮮明に思い返すことができます。注射や採血前には空のシリンジにて指の訓練及びイメトレに励みました。その訓練の日々を経て当日を無事迎えることができた時は安堵しました。

平成28年度職員配置状況

所長 國東大資

副所長 岡田啓延

安全対策課		衛生課		防疫課		病性鑑定課	
課長	副所長兼務	課長	石崎五久美	課長	富田啓介	課長	香川裕一
主査	西村さち代	課長補佐	山口悦司	担当課長補佐	中山卓也	担当課長補佐	丸尾喜之
担当課長補佐	小嶋睦	職員	船曳智也	主査	松本瞳	課長補佐	大田康之
事務嘱託	西村彩香			職員	寺一未奈子		
		畜産専門員	宮奥正一	畜産専門員	北野和博		

職員一同、淡路の畜産振興のため頑張っています。



畜産共進会で審査員補助の経験 肉用牛の部

現在、衛生課に配属され、飼育動物診療施設開設届や動物用医薬品販売業許可に関する事務をさせていただいています。また、酪農の生産性向上に向けて、関係団体の依頼に基づき、乳牛から採取した乳汁の細菌検査等により乳房炎防除に取り組んでおります。失敗ばかりの毎日ですが、先輩職員や他の県組織、関係団体の方々に多くのノウハウをご教授いただきながら日々、研鑽に努めております。

さらに、農家の方々への巡回や検査業務をはじめ、家畜保健衛生所の多様な業務を経験させていただいております。これからも、より多くの経験を積み、畜産振興に寄与できるように努めてまいりたいと思います。

今後ともよろしく願いいたします。



★ 県内の家畜伝染性疾患発生状況 (H27, H28) ★

区分	病名	畜種	平成27年1月～12月				平成28年1月～8月			
			県内		管内		県内		管内	
			戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数
法定伝染病	ブルセラ病	牛								
	結核病	牛								
	ヨーネ病	牛	1	1			1	1		
		羊	1	1						
	炭疽	牛								
	伝達性海綿状脳症	牛								
	高病原性鳥インフルエンザ	鶏								
腐蛆病	みつばち									
届出伝染病	牛ウイルス性下痢・粘膜病	牛	2	4	1	3	5	5	3	3
	牛伝染性鼻気管炎	牛	1	3						
	牛白血病	牛	147	150	38	38	88	95	44	44
	アカバネ病	牛								
	イバラキ病	牛								
	破傷風	牛	1	1						
		馬								
	レプトスピラ症	犬	5	5						
	豚丹毒	豚	9	20			4	5		
	豚エンテロウイルス性脳脊髄炎	豚								
	マレック病	鶏								
	鶏痘	鶏	1	2			2	15		
	サルモネラ症	あひる	1	4			1	4		
	あひる肝炎	あひる	1	4						
バロア病	蜂	1	1							

注 未発生の疾患は一部削除

最近思うこと・・・

これって、想定内、想定外、どう思います。

○6月に実施されたイギリスの欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票、結果は離脱派が52%を確保し勝利。○11月に実施されたアメリカ大統領選、当初クリントン氏の優勢が伝えられていたが、結果は「変化」を訴えた共和党のドナルド・トランプ氏が当選。私にとっては両方とも想定外でした。

この様に想定外のことが平然と起こる時代において、「日本の食糧自給率の低さ」このままでいいの「自国民の食料は自国で確保する姿勢（自給率100%）が必要では」ということを考えてしまいます。

昔、車などの輸出産業に力を入れて外貨を稼ぎ、その外貨で食料を輸入すればいいという意見を聞いたことがあります…。もし、日本が食料を輸入している国が、「日本へはいくら金を積まれても食料は売らない。売るとしても高額でないと売らない。」と言い出したら…餓死する人も出てくるかも。それって、想定内、想定外？

現在の農業は厳しい時代に置かれているかもしれないが、人間が生きていく上で食料は必要不可欠な物であり、その食料生産に携わる農家は大事にされるべき職業です。農家の皆さん頑張りましょう

(H. O.)